

丸亀市・塩飽諸島の取組

窪田 美由紀*・佐藤 光**・山本 珠美***

山本 皆さん、こんにちは。青山学院大学教育人間科学部の山本珠美です。地域実習の香川県丸亀市、塩飽諸島を担当しております。今、これを収録しているのは10月24日、日曜日の午後4時です。先ほどまで丸亀市で地域実習をやっておりました。たった今終わったばかりというところです。それでは、実習のコーディネートをしてくださいました丸亀市の窪田美由紀さんと一緒に、実習について説明したいと思えます。まずは窪田さん、自己紹介をお願いいたします。

窪田 こんにちは。丸亀市生涯学習課に勤務しています、社会教育主事の窪田と申します。よろしくお願ひします。私は当初4年間、生涯学習担当として、学びの場の提供など、地域を中心とした社会教育の業務をしておりました。その後、市民協働担当になりまして、現在4年目です。NPO等の市民活動を応援したり、相談を受けたりという仕事をしております。簡単に言えば、市民の皆さんが活動しやすいようにコーディネートをしているということです。社会教育主事を学ぶ中で、支援という目線が非常に身に付いて、現在の仕事にも役立っています。

山本 さて、この動画の内容ですが、まずは丸亀市がどういう市であるのか、そして今どのような課題を抱えているのかということを窪田さんにお話しいたできます。その中で、「マルタス」という言葉が何回か出てくるかと思ひます

が、これは丸亀市市民交流活動センターの愛称で、2021年、今年の3月に新規オープンしました。その開館準備をやっていたのが窪田さんとして、このセンターを今後どのように活用していくのかというのが、一つ大きな課題になっています。



丸亀市市民交流活動センター（マルタス）

そしてもう一つ、丸亀市は離島を持っています。離島の振興も大きな課題ですので、そちらについても聞いていきます。その後、2021年度の地域実習について説明していきます。今年はコロナということもあって、本当は8月下旬に丸亀市に行きたかったんですけども、それが叶いませんでしたので、まず8月にオンライン実習をやりました。そして、ようやく10月になって現地実習となりました。現地ですどのようなことをやったのかということをお話していきます。最後に、まだ1時間前に実習が終わったばかりですが、地域実習を終えてということで、窪田さんにお話を聞いていこうと思ひます。それでは窪田さん、丸亀市の紹介をお願いします。

*丸亀市市民生活部生涯学習課 社会教育主事

**丸亀市市民交流活動センター センター長

***青山学院大学教育人間科学部 教授

います。

窪田 はい、まず香川県は四国の中の、地図でいうと右の上ですね。日本で一番小さい県になります。香川県丸亀市は人口が約11万弱、香川県下で人口が2番目の市になっております。丸亀の有名なものには、私たちの地元の人の誇りみたいなものなんですけれども、石垣の高さが日本一の丸亀城があります。今の時期には「キャッスルロード」といってライトアップをしたり、お城を使ったいろいろな活動を行っています。それから、うちわですね。国内シェアが9割あります。あと、塩飽諸島、骨付島がよく使うキーワードですけれども、塩飽諸島ことはまた後ほどお伝えしようと思います。ちなみに、丸亀といったら、皆さん丸亀製麺を思い浮かべと思うのですが、丸亀に丸亀製麺はありません。ただ、丸亀製麺からは公用車に広告を出していただいたり、いろいろな形で地域貢献をしていただいているような関係性を持っています。

それから丸亀市市民交流活動センター、愛称マルタスです。将来的には人口減があり、丸亀も例に漏れず減っていくと思われます。そういう状況の中、住む人が幸せな気持ちでいられる町って何だろうということを、行政としてもいろいろ考えているんですね。そこで、一緒に町をつくる、「自分ごと」として町のことを考える人を増やそうよ、という政策を打ちまして、市役所の庁舎が建て替えになるときに、一緒にこの市民交流活動センターが建設されました。マルタスはまちづくりの拠点施設であり、目的は人づくりですとよく言っていますが、ワークショップやトークショーをしています。7月には、瀬戸内の島に移住してきた方がどういう思いで移住してきたかとか、どんな活動をしているかというトークショーを行いました。

また、丸亀市には穏やかな瀬戸内海に浮かぶ塩飽諸島という島々がありまして、五つの島できております。港からはフェリーや小さな

客船が運航していて、30～40分くらいで着きます。今回はこの中の広島、広島県の広島ではなくて「讃岐広島」に行きました。島に行く途中には、瀬戸大橋がきれいに見られるところもあります。

山本 漢字は一緒なんですよ、広島県の広島と。でも、香川県丸亀市の広島です。

今、窪田さんに丸亀市の紹介をしていただきましたが、我々、本当は2021年8月23日から27日までの1週間、行くはずでした。ところが緊急事態宣言が出てしまいましたので、仕方なくこの期間はオンライン実習をしました。詳細は割愛しますが、まず丸亀市から、塩飽諸島も含めて、市が今どのような課題を抱えているのかについてプレゼンをしていただき、それに対して、学生が実際に丸亀市に行って何ができるのか、企画を考えました。この地域実習、30クラスにわかれていて、それぞれのクラスでやり方はあるかと思いますが、このクラスに関しては、既にある企画に参加するのではなく、企画そのものを考え、そして実施するということを考えておりました。今年はなかなかそのようにうまくはいかなかったんですけども、学生が企画を売り込むということをいたしました。

学生は二つのグループにわかれてプレゼンをしました。一つ目のグループは、ずばり「広島に行きたい!」というテーマで、広島に行つて島のために学生は何ができるかを考えてプレゼンを行いました。もう一つのグループは、「〇+青学生=?」という、マルタスで青学生は何ができるかというテーマで発表しました。これらのプレゼンについては、丸亀市の職員、マルタスのセンター長、そして島の方から、オンラインでつないで批評していただきました。

8月はどうなることかと思っておりましたが、10月になりまして緊急事態宣言が解除され、丸亀市も受け入れてくださるということになったので、期間は2泊3日と短くなっ

てしまいましたけれども、丸亀市で現地実習となりました。初日ははじめに丸亀市内のマルタスを見学しました。それから、丸亀市にお住まいの山倉さんという方がいらっしゃるのですが、この方は個人で「どろんこ亭」という施設をつくって、そこを地域の人たちの活動の拠点として開放しています。初日はマルタスとどろんこ亭の見学を行いました。

2日目は広島を訪問しました。広島は石の産地です。青木石材協同組合の筒井さんに石切り場をご案内いただきました。それから、まだ観光地化はされていないのですが、心経山という山がありまして、頂上からはとんでもなく素晴らしい絶景を見ることができます。そちらにも道なき道を登っていきました。午後は、島に移住してきた唐崎さんという方がいまして、その方が今、島旅農園「ほとり」という民宿を営っております。そちらにお伺いして島民の方と交流しました。

そして3日目は、再びマルタスにて、地元の香川大学の学生と交流しました。香川大学、実は私の元職場です。私は15年間香川大学で仕事をしていました。そのときの同僚の先生に学生を連れて来ていただきまして、「地域活性化プロジェクト」に関わっている学生たちと意見交換をしました。これは大変盛り上がりました。

それでは、ここからは、具体的に現地実習の3日間どのようなことをしたのかということをお話していきたいんですが、ここからは、マルタスのセンター長、佐藤さんにも加わっていただきます。佐藤さん、自己紹介をお願いします。

佐藤 皆さん、こんにちは。マルタスのセンター長の佐藤光と申します。社会人になって6年目になります。若さを活かして、実習の皆さんにマルタスの良さを全力でお伝えしました。残念ながらマルタスのイベントをしている風景は見せられなかったのですが、マルタスの良さを感じていただけたらと思って頑張りました。

山本 ありがとうございます。それでは窪田さん、実習1日目からの説明をお願いします。

窪田 はい。最初に、佐藤さんにマルタスの施設の中を案内していただきました。マルタスを見た後、今度は山倉さんがつくった「どろんこ亭」に行きました。学生さんに見せてあげなかったのが、ツリーハウスです。これは、山倉さんの少年心の現れだと思うんですけれども、ぜひ見てもらいたいと思って一緒に行きました。山倉さんは建設業をしている方ですが、地域のお役に立ちたい、子どもが楽しめる場所をつくりたいということで、このどろんこ亭をつくりました。この場所をフリースペースとしていろいろな方に貸してイベントをされています。ツリーハウス以外に、ピザ窯もあります。今回の実習では作ることができなかったんですけども、そういう楽しく、人と人とがふれあえる場をつくるのが得意な方です。



どろんこ亭のツリーハウス

山本 コロナでなければ、みんなでピザを焼いて食べようと思っていたんですが、残念ながら今回はNGということですので、できなかったんです。その代わりに食べたのが…。

窪田 先ほどの骨付鳥ですね。香川県はうどんがよく知られていますが、丸亀は骨付鳥が有名です。うどん県骨付鳥市と書いて、その後に町名と名前を書けば、郵便が届きます。

山本 本当に届くんですか。

窪田 本当に届きます。それぐらい骨付鳥が有名なので、食べられるお店にも連れて行ってみんなで食べました。次、2日目ですね。午前中は、広島、讃岐広島の心経山と石切り場に行きました。今回の学生さんは8名でしたが、船に乗るのが初めてという方もいらっしゃいました。みんなですごくいい笑顔で写真を撮っていました。フェリーで行ったので、一番上の甲板に出て瀬戸大橋を見たりしながらですね。瀬戸内は「多島美」と言われるように、島がたくさんあるので、そういう島の説明を受けながら広島に渡りました。

最初に心経山に登ったんですけれども、ここはガイドなしでは行けないような結構険しい山道です。青木石材協同組合の筒井さんに手を引いてもらいながらみんなで岩場を上がりました。獣道みたいなところでした。頂上からは下に瀬戸内の海が見えるのですが、本当に大絶景でした。ただ、山頂なので、風が強かったですね。岩が突き出ているところで記念写真を撮ったのですが、足がすくんでしまいました。そこが観光地になっていいのかどうかというのはまた別として、こういう地域の観光資源になりそうな場所を見る機会として、非常によかったと思います。



心経山の頂上から見た瀬戸内海

次は石切り場に行きました。とても高い岩場にありますが、普段はここで石を切っているので、通常の人はいれません。視察という形でだけ入れるようになっているのですが、結構音が響くので、いろいろな形で活用できそうな、魅力的な場所だと思いました。

山本 石が落ちてくるかもしれないということだったので、安全第一で、みんなヘルメットをかぶっていました。

窪田 次に午後ですね。今度は、先ほどお名前を出しました唐崎さんが運営している「ほとり」という農園兼民宿に行って、お昼ご飯を食べさせてもらいました。石切り場などを見学していて到着が遅くなってしまっ、ご飯を食べている間にお約束していた島観光案内人の方が先に来られてしまったのですけれども、お野菜とかご飯を見て、これかわいいと言って自分のカメラで写真を撮っていました。意外と年齢

の高い方にも、写真を撮るという行為は好まれているんだなと感じました。

昼食後には、島の方と交流をしました。唐崎さんと、先ほど挙げた島観光案内人という、島の魅力を皆さんに知ってもらう活動をしている女性の方お二人も同席されました。この方々は結婚して島に来られたということでした。

また、その島の案内人の方が、展示スペースを使って島の歴史などを展示しているところを案内してくださいました。広島の前が有名な航路になっていて、沈没というか漂流して広島へ流れ着いた外国人の方を、お墓を作って弔ったということがありました。その親族と交流しているという資料を閲覧しました。



島旅農園「ひとり」

山本 ここは、広島市民センターという施設ですが、もともとは広島小学校でした。子どもがいなくなったためリニューアルして市民センターに変えたので、この展示室は元教室です。

窪田 最後、3日目ですね。マルタスで香川大学の学生さんと交流会をしました。先ほど山本先生がお話しした8月のオンライン実習で青学の皆さんがグループで作ったスライド、「広島に行きたい!」と「○+青学生=?」というプレゼンをし、反対に香川大学の方は、実際に今地域で実践している取り組みについて説明をして、最後に交流という流れでした。あっとい

う間に2時間終わりましたね。

山本 2時間では足りなかったですね。私は、もともと香川大学に勤めていたので、香大生の取り組みは知っていました。今回、青学の学生は、コロナ禍だったので仕方がないんですが、地域の実情を何も知らない状態で企画を考えざるを得なかった。それに対して、香川大学の学生はもう何年間も地域活性化プロジェクトをやっているの、青学の学生からしてみると、いかに自分たちの企画が机上の空論であったかということが、地元の学生と交流することで分かったようです。一方で、私は香川大学の学生の状況もよく分かるのですが、香大の学生からしてみると、何年も続いていてちょっとマンネリ化してしまっている。自分たちは地元だから当たり前のことをしているにすぎない。彼らにとっては、外から全く何も知らない状態で考えられたアイデアは、それはそれですごく新鮮に映ったようです。そういうお互いの相乗効果というか、両者にとっていい影響を与えることができた交流ではなかったかと思います。センター長の佐藤さん、いかがでしたか。

佐藤 はい、プレゼン終了後に香大生の人たちと話したんですが、長年歴史があるプロジェクトなので、なかなかチャレンジングなものがない、と。やっぱりしがらみも多い、その分、青学生の企画が新鮮で、すごくうらやましいと言っていました。青学生の斬新さに負けないように、自分たちの代から何かチャレンジしたい、ちょっとずつ変えていきたい、という感想を聞いて、交流させてよかったなと思いました。僕が一番印象的だったのは、香大生の発表の中で、「まず地域に溶け込む、地域との信頼関係が大事」という話をしていました。これ、青学生の人たちも同じように考え「地域との信頼関係を作るために、何かボランティアとか海の清掃とかに行く」という話をしていて、地域への入り方はしっかり的を射ているなと思いました。

た。あとは机上の空論だけじゃない現実を知った企画として展開するだけだったと思うので、青学生にとっても実りのある会だったと思います。



香川大学生との交流会

山本 本当は青学の学生は自分で企画して、それを実行するということまでをやりたいかったです。今回はそこまでいかず、代わりに急遽出たアイデアで香大生と交流する、「プレゼン大会」というところで終わってしまいました。でも、これはこれで非常に面白い企画だったかなと思っています。

以上、駆け足ですが、地域実習の様子をご紹介しました。現地実習の3日間を終えて、佐藤センター長、いかがでしたでしょうか。

佐藤 今回、地域実習ということで、実際に現場を見ることができた機会だったと思います。

やはり来る前と来た後で、すごくイメージが変わったかと思います。その違いを、ぜひ記憶に残していただきたい。そこがおそらく、外から来た人たちの一番の強みになります。外と内の違い、その違いをしっかりと胸に刻んで、それをネタに企画をしていてもらえればと思います。

山本 では、最後に窪田さんお願いします。

窪田 私も今回、青山学院大学の学生さんが来てくれて一番感じたのは、私たちが普通に思っていることが、実は学生さんにとって非常に魅力があることだったということです。今センター長も言ったように、外と中の視点は違うので、ぜひいろいろなところで、行く前の考えを持ちつつ、行ってからそれを地域の人に伝えてほしいし、そうすると地域のほうもきっと何かを感じるかと思います。こういう交流の実習を、ぜひまた進めてもらえたら、行政の立場で言うと非常にありがたいと思っています。

山本 地域実習が終わったばかりの大変お疲れのところ、佐藤さん、窪田さん、本当にどうもありがとうございました。

窪田 ありがとうございました。

佐藤 ありがとうございました。